

常盤の翠

志・実・錬

発行

平成 31 年 2 月 28 日

鹿児島市立伊敷中学校

未来を拓く確かな学力と

豊かな創造力

教頭 松本眞一

コンピュータが自ら学習、判断する人工知能(AI)が身の回りにあふれる社会は、もうそこまでやっています。マスメディアの情報によると、工場では機械が不良品を正確に判別し、介護施設ではロボットが相手の状況に応じて会話するようです。また、病院ではAIを搭載したシステムが、病気を早期かつ高精度に発見し、その後の治療に役立てます。

さらには、平均寿命もこれからは、約十年間に二歳から三歳も伸びると考えられています。私が中学生の頃、今からおおよそ四十年前は、人生八十年と言われていた時代です。しかし、平成十六年から十七年生まれの中二生、成十六年から十七年生まれの中学生の寿命は、一〇四歳に到達するのではないかと考えられています。皆さんの時代は、人生一〇〇年の時代と言えます。



そのような社会で活躍するためには、人間としてどのような資質や能力が要求されるのでしょうか。私なりにいくつかの企業が求める人材像を調べてみますと、「課題を見いだし、チームで協力して解決する力(課題設定力・解決力)」、「価値観の異なる相手とも双方向で真摯に学び合う対話力(コミュニケーション力)」、「困難から逃げずにそれに向き合い、乗り越える力(耐性・胆力)」が挙げられるようです。

国はこの状況を受け、戦力となる人材を育てる大学にアドミッションポリシー(入学者受入方針)を作り、これに、「入学者に求める資質や能力」等を盛り込み、入試については「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体性をもって多様な人々と協働して学ぶ態度」の資質や能力を評価するように求めました。この入試は、今から二年後の大学受験からはじまります。

それでも、皆さんは不安を抱く必要はないと思います。なぜなら、伊敷中は、皆さんの未来を見据えて、学校教育目標の中に「未来を拓く確かな学力と豊かな創造力」を掲げ、前に述べた資質や能力をもっと具体的に、「課題発見力」、「情報活用力」、「論理的思考力」、「協働する力」、「メタ認知(もう一人の自分が客観的に自分を把握)」の五つの汎用的な能力として落とし込み、先駆的に教育活動を展開してきているからです。

皆さんいかがでしょうか。これからの企業が求める人材と国が求める人材を意識して学んでいたことに気付いてほしいと思います。是非、自信をもって自らの未来を拓いてほしいと思います。

最後に、この五つの汎用的な能力を身に付け、働かせるためには、自分や他者の幸せを願いつつ「粘り強くやり抜く力」が必要となります。

これからも、伊敷中の皆さんの健闘を祈りつつ陰ながら応援し続けます。

3月の主な行事予定

- 6日 1・2年実力テスト (~7日)
公立高校入学者選抜学力検査 (~7日)
- 8日 クラスマッチ (3年)
- 11日 卒業式予行
- 13日 第72回卒業式
- 18日 クラスマッチ (1年)
1年食に感謝する日
- 19日 クラスマッチ (2年)
2年食に感謝する日
- 25日 修了式

揃えるというひとつ

行動の意味

「皆さんは、何のために揃えていますか？」
「なぜ、揃えないといけないと思いますか？」
「心の中に、それぞれの揃える目的がありますように…」
26日(火)、全校朝会の一年ソシオドラマでは、18名の生徒が「揃える」ことの意味を問う演技を行いました。「常盤の翠」の前号では「なんで星人」が、人は行動に自分なりの意味を見付けないと本気になれない、という文章を寄せていましたが、その考えが少しずつ広がっているようです。

皆さんの生活はまず様々な規則で成り立っています。規則をもう少し広い意味で捉えたと「規範」という言葉があります。迷惑をかけるから守らねばならない、というよりは緩やかで「望ましい行動」という意味です。

履き物を揃える、傘を揃えるは「規範」のレベルでしょうか。ひよっとしたら守らなくてもいいこと。それでも、小さいときから、そうしなさいと指導を受けてきたのではないかと思います。

中学生の今、改めて自分なりにその意味を考えてみることに。それはきっとAIでは測れない、人間らしい気遣いのできる自分につながっていくことでしょう。



劇中の最初の挨拶は、わざとばらばらに。最後の挨拶は全員で声を揃えよう…様々な工夫を自分たちで話し合い練習したそうです。文化祭からのつながりが感じられます。

未来へ誓う！ 立志式

「自覚」「立志」「健康」「奉仕」の誓い

2月9日(土)、二年生の立志式が行われました。「自覚」「立志」「健康」「奉仕」をテーマに、それぞれの夢や決意、これまで温かく見守ってくださった周囲への感謝を堂々と述べる姿は、とても立派なものであり、頼もしさを感じました。

皆さんが立てた誓いは、決して遠い未来にあるものではありません。進路選択や受験に向かって励んでいる二年生の姿を、しっかりと心に刻み、今の生活を未来へつなげていってほしいと思います。

また講演会では、ジミー入枝さんが「鹿児島発信の芸能・音楽―夢の実現に向けて―」という演題で、夢の実現に向かう過程で大切にしたいことをお話してくださいました。「勉強がわからないときはその原因を探ろう。前に戻ってやり直すことが必要」という言葉が印象的でした。

保護者の皆様も多数の御参加、ありがとうございました。幼少期や小学校の頃のスライドを見ながら、二年生が成長してきたこれまでに思いを馳せ、改めて子供さんへの期待を感じるところでした。これからも共に成長を見守っていくことができたいと思います。



「立志」

6組代表 竹ノ下美月

私の将来の夢は、警察官になることです。警察官は皆が安心して暮らせる世の中を守るための仕事です。だから私は「どんな警察官になりたいか。」と聞かれたら、「困っている人だけでなく多くの人を安心させられる警察官になりたい。」と答えます。このような明確な目的をもつと、今を無駄にはいけないと思えます。なぜなら、勉強も受験も部活動も、全て夢実現につながる大切な過程だからです。私は今日、この場を借りて「理想とする警察官になる！」という志を立てました。その志を忘れることなく、日々、くじけず精進し続けることを誓います。

保護者の声

立志式に参加させていただきました。改めてどんな大人になってほしいか、を考えることができました。

立志式、感動しました。いつもとは違う引き締まった表情に成長を感じました。歌も迫力があり、講話もためになりました。

学年・学級PTA

三年生は7日(木)、一・二年生は26日(火)、本年度最後の学年・学級PTAが行われました。担任と共に学級の様子を振り返ってみると、改めて様々な出来事があったのではないのでしょうか。また、PTA活動を通して、親しくなった保護者の方もいらっしやったことと存じます。本年度も残りわずかですが、よい形で次のステップへ導けるよう励んでまいります。



栄光の記録

○第14回IIPA「CCTV映像情報モラル・セキュリティコンクール」
 標榜部門 優秀賞 1年1組 上園 彩夏
 1年3組 石澤 悠生

○2018年塩野直道記念「第6回算数・数学の自由研究」作品コンクール
 鹿児島県 優秀賞 2年1組 桑波田那津

